

2013年IEA閣僚理事会における気候変動に関するステートメント（仮訳）

我々、国際エネルギー機関（IEA）の2013年閣僚理事会に出席しているエネルギー閣僚は、安全で、受容可能かつ持続可能なエネルギーを供給できるよう取り組まねばならないと認識している。エネルギー部門で取られる行動は気候変動を抑制する上で極めて重要である。現在、世界の温室効果ガス排出量の約3分の2はエネルギー部門によるものである。これに関連して、我々は、全ての安全かつ持続可能な低炭素技術及びエネルギー効率が気候変動を緩和する上で重要な役割を果たすと認識するとともに、これらのアプローチをさらに展開することにコミットし続ける。

我々は、温室効果ガス排出量を削減するための費用効率の高い機会を提供するIEAの市場及び技術に関する最先端の分析を進める作業を歓迎し、これを奨励する。最近発表された、そのような成果物の1つに、2013年の「世界エネルギー展望」の特別報告書である「エネルギーと気候変動の構図を描き直す」がある。同報告書は、幅広く実施された場合でも経済成長を阻害せずに2020年までにエネルギー部門の温室効果ガス排出量を削減するための大きな機会を提供する4つの実用的なエネルギー政策措置について分析を行っている。その4つの政策措置は、既存の技術と実効性が証明された政策に基づくものであるが、以下のとおり。

- 建物、産業及び運輸部門におけるエネルギー効率を高めることを目標とした措置を導入すること
- 石炭火力発電が使用されている場合、高効率な石炭発電所の建設及び使用を奨励すること
- 石油・ガス生産におけるメタン放出量を最小化すること
- 最貧困層を対象とした支援を提供しつつ、無駄な消費を助長する非効率な化石燃料補助金を合理化するとともに段階的に廃止すること

我々は、その報告書における4つの政策措置に関するIEAの分析を歓迎するとともに、2015年にフランスが主催する用意があるCOP21によって妥結される国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の交渉に基づく新たな合意に向けた自国の削減目標を策定する上で、これらの政策措置を考慮するよう奨励する。我々はワルシャワで行われるUNFCCCの重要な交渉（COP11）にも留意する。そのような活動は、世界をより安全で持続可能なエネルギー・システムに移行させる上で重要な役割を担う。